

議ヲ開キマス、本日委員長ヨリ報告書ノ提出セラレマシタ臨時軍事費豫算追加案、臨第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號、是等ノ二案ト爲シ、之ガ會議ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メタイト存ジマスルガ、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、豫算委員長伯爵林博太郎君

〔左ノ報告ハ朝讀ヲ經サルモ参照〕

一臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)
一豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)
右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリ
ト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月十日

委員長 伯爵林 博太郎

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

〔伯爵林博太郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵林博太郎君 只今上程サレマシタ臨時軍事費豫算追加、臨第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號ニ付キマシテノ、豫算委員會ノ
經過ヲ御報告致シマス、豫算委員會ハ本日午前十時開會、先づ大藏大臣ノ説明ガアリ
マシテ、祕密會ニ入リマシタ、分科會ヲ開
キマセヌデ、質問、討論ノ後、此ノ兩案ハ

全會一致可決ニ相成リマシタガ、今其ノ經過ノ大要ニ付テ御報告ヲ致シマス、先ツ簡單ニ此ノ豫算ノ大要ヲ申上げマス、一、臨時軍事費豫算追加二百七十億圓、前年度ニ比シマシテ九十億圓ノ増加デアリマス、初メニ其ノ歲出豫算ノ内譯ヲ申シマスト、第3項豫備費ニ於テ六十億圓、第四項臨時軍事費ニ於テ二百七十億圓、是ハ陸海軍ノ經費デアリマスガ、陸海軍兩省ニ於キマシテ本省費以外ノモノハ、悉ク臨時軍事費支辨ト爲スコトガ原則トナッタノデアリマス、本豫算ハ、即チ大東亞戰爭遂行ノ爲此ノ増加ヲ必要トシタモノデアルトノ説明デアルノデアリマス、以上ハ歲出デアリマスガ、第二ニ歲入豫算ニ付テ内譯ヲ申シマスト、公債金ニ依ルモノガ百七十一億六千三百餘萬圓、借入金ニ依ルモノガ三十三億圓デアリマス、是ハ南方開發金庫等ガ出來マシタノデ、其ノ方カラノ借入等ガ計上シテアリマス、公債金、借入金以外ノ歲入ハ六十五億三千六百餘萬圓、此ノ内譯ハ、一般會計カラノ繰入金ガ四十三億三千六百餘萬圓、第二ニハ特別會計ヨリノ繰入金ガ五億七千九百餘萬圓デアリマス、是等ヲ一々申上ゲルノハ煩雜デアリマスノデ、ドウカ此ノ軍事費中ノ第十四頁ニ於キマシテ詳シク其ノ數ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號ニ付キマシテノ、豫算委員會ノ
島「ブナ」ニ於ケル敵牽制ノ任務が終リマシテ、共榮圈ノ外壁ヲ固メタル功績ニ付テ縷々ナルノデアリマス、次ニ豫算外國庫ノ負

擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號、是ハ臨時軍事費等ニ關スルモノデアリマシテ、時局ノ進展ニ伴ツテ其ノ需要ヲ充ス爲ニ、極メテ必要ナモノデアリマス、臨時軍事費ニ關シマシテ、第七十九回帝國議會ノ協贊ヲ經テ改定シマシタル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ中デ、二十五億八千萬圓トアルノヲ、今回五十九億五千萬圓ニ改ム、其ノ説明ニハ、兵器糧秣其ノ他ノ調達ニ付テ、豫算外デ豫メ契約ヲ爲スヲ要スルモノガ増シタク云フコトデアリマス、大體ソレガ主ナ點ゴザイマス、明年度ノ國民所得ハ五百億圓ト大體推定サレ、國家的資金ノ需要額ガ三百七十億圓アリマス、租稅其ノ他ノ百億圓ヲ引キマスト二百七十億圓ニナリマスノデ、此ノ際國民貯蓄ノ目標ハ二百七十億圓ト大體ナル目安デアル、國民ノ私生活ノ消費ト云フモノハ、ソレデアリマスカラ、十八年年度ニ於テハ、極メテ緊縮サレナケレバナラナイ、即チ百三十億ニ緊縮シテ戴カナケラナイ、即チ百三十億ト積ツタノガ、今年ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、拔ク爲ニ國民ノ奮起ヲ望ム次第デアル、是ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、收入ノ多イ家庭ニ於キマシテハ四割乃至五割モ、今度ハ緊縮ラシテ貴ハナケレバナラナイ時代ガ來タノデアルト云フコトヲ、特ニ力説サレタノデアリマス、祕密會ノ事ハ全然申上ガルコトガ出來マセヌ、續イテ質問ニ入リマシテ、飛行機、殊ニ民間ノ

擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號、是ハ臨時軍事費等ニ關スルモノデアリマシテ、時局ノ進展ニ伴ツテ其ノ需要ヲ充ス爲ニ、極メテ必要ナモノデアリマス、臨時軍事費ニ關シマシテ、第七十九回帝國議會ノ協贊ヲ經テ改定シマシタル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ中デ、二十五億八千萬圓トアルノヲ、今回五十九億五千萬圓ニ改ム、其ノ説明ニハ、兵器糧秣其ノ他ノ調達ニ付テ、豫算外デ豫メ契約ヲ爲スヲ要スルモノガ増シタク云フコトデアリマス、大體ソレガ主ナ點ゴザイマス、明年度ノ國民所得ハ五百億圓ト大體推定サレ、國家的資金ノ需要額ガ三百七十億圓アリマス、租稅其ノ他ノ百億圓ヲ引キマスト二百七十億圓ニナリマスノデ、此ノ際國民貯蓄ノ目標ハ二百七十億圓ト大體ナル目安デアル、國民ノ私生活ノ消費ト云フモノハ、ソレデアリマスカラ、十八年年度ニ於テハ、極メテ緊縮サレナケレバナラナイ、即チ百三十億ニ緊縮シテ戴カナケラナイ、即チ百三十億ト積ツタノガ、今年ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、拔ク爲ニ國民ノ奮起ヲ望ム次第デアル、是ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、收入ノ多イ家庭ニ於キマシテハ四割乃至五割モ、今度ハ緊縮ラシテ貴ハナケレバナラナイ時代ガ來タノデアルト云フコトヲ、特ニ力説サレタノデアリマス、祕密會ノ事ハ全然申上ガルコトガ出來マセヌ、續イテ質問ニ入リマシテ、飛行機、殊ニ民間ノ飛行機、滑空機ト云フコトニ付キマシテハ、或ハ閑却サレテアルヤノ處ガアル、是ハ今ノ場合非常ニ必要ナコトデアルガ、ソレ等ノ増産並ニ乘員ノ養成等ニ付テハ如何ナ考ラ持ツテ居ラル、カ、之ニ付キマシテ當局ヨリ懸々ト其ノ養成ノコトニ付、又民間航空機ノ發展ノコトニ付テ努力スルト云フ答辯ガアリマシタ、次ニハ軍政下現地調辦ノコトニ付テ質問ガアリマシタ、現地調辦ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ中デ、二十五億八千萬圓トアルノヲ、今回五十九億五千萬圓ニ改ム、其ノ説明ニハ、兵器糧秣其ノ他ノ調達ニ付テ、豫算外デ豫メ契約ヲ爲スヲ要スルモノガ増シタク云フコトデアリマス、大體ソレガ主ナ點ゴザイマス、明年度ノ國民所得ハ五百億圓ト大體推定サレ、國家的資金ノ需要額ガ三百七十億圓アリマス、租稅其ノ他ノ百億圓ヲ引キマスト二百七十億圓ニナリマスノデ、此ノ際國民貯蓄ノ目標ハ二百七十億圓ト大體ナル目安デアル、國民ノ私生活ノ消費ト云フモノハ、ソレデアリマスカラ、十八年年度ニ於テハ、極メテ緊縮サレナケレバナラナイ、即チ百三十億ニ緊縮シテ戴カナケラナイ、即チ百三十億ト積ツタノガ、今年ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、拔ク爲ニ國民ノ奮起ヲ望ム次第デアル、是ハ昨年ハ百五十億圓ト積ツタノガ、今年ハ二十億圓ノ減少トナッタ次第デアリマス、收入ノ多イ家庭ニ於キマシテハ四割乃至五割モ、今度ハ緊縮ラシテ貴ハナケレバナラナイ時代ガ來タノデアルト云フコトヲ、特ニ力説サレタノデアリマス、祕密會ノ事ハ全然申上ガルコトガ出來マセヌ、續イテ質問ニ入リマシテ、飛行機、殊ニ民間ノ

第十四條 石油賣捌人ハ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡スコトヲ得ズ

第十五條 石油ハ政府ノ賣渡シタルモノニ非ザレバ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ズ但シ石油製造者納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費スルハ此ノ限ニ在ラズ

シ石油製造者納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費スルハ此ノ限ニ在ラズ

由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費スルハ此ノ限ニ在ラズ

所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 石油製造者、石油賣捌人及第十條第一項ノ規定ニ依リ石油ヲ買受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ石油ノ製造、納付、賣渡又ハ使用ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第十七條 當該官吏ハ石油製造者、石油賣捌人又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ石油ヲ買受ケタル者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲タル物件ニ付検査ヲ爲シ

シ又ハ左ニ掲タル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 石油製造者、石油賣捌人又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ石油ヲ買受ケタル者ノ所持スル石油

二 石油ノ製造、納付、賣渡又ハ使用ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 石油ノ製造、賣渡又ハ使用上必要ナル建築物、機械、器具、容器、材料其ノ他ノ物件

第十八條 本法ニ依リ納付セシムベキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ石油ノ輸入若ハ移入又ハ輸出若ハ移出ヲ爲シタル者

二 第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シ政府ニ納付スベキ石油ヲ讓渡シ、消費シ又ハ隱匿シタル者

三 第十一條ノ規定ニ違反シ石油ヲ讓渡シ、質入シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル者

四 第十條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下の罰金ニ處ス

五 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

六 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ石油ヲ賣渡シタル者

七 第十五條ノ規定ニ違反シ政府ノ賣渡シ、質入シ又ハ消費シタル者

八 第二十二條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徵役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

九 第十一條ノ規定ニ違反シ石油ヲ讓渡シ、質入シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル者

十 第二十條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下の罰金ニ處ス

十一 第二十一條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十二 第二十二條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十三 第二十三條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十四 第二十四條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十五 第二十五條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十六 第二十六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條乃至第二十一條、第二十三條又ハ第二十

四條第一號乃至第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科

ス

十七 第二十七條 間接國稅犯則者處分法ハ第

二十三條、第二十四條又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

十八 第二十八條 石油製造者石油賣捌人ト看做ス同項ニ掲タル者

十九 第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二十 第三十條 本法施行ノ際現ニ石油ノ製造ヲ爲ス者ハ本法施行後一月以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ届出ヅベシ

二十一 第三十條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザル者ハ前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者ハ之ヲ石油製造者ト看做ス同項ニ掲グ

二十二 第三十一條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

二十三 第三十二條 石油製造者ガ本法施行ノ際現ニ所有スル石油ハ之ヲ政府ニ納付スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

八千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ事由ナクシテ第六條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ命令シタル處理ヲ爲サザル者

二 正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ石油ヲ納付セザル者

三 第十六條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ爲サズ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタル者

四 第十七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ、虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者

五 第二十一條 第十九條乃至第二十一條又ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下の罰金ニ處ス

六 第二十二條 第十九條乃至第二十一條又ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

七 第二十三條 第十九條乃至第二十一條又ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

八 第二十四條 第十九條乃至第二十一條又ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

九 第二十五條 第十九條乃至第二十一條又ハ二年以下ノ懲役又ハ一千圓以下の罰金ニ處ス

十 第二十六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其

ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條乃至第二十一條、第二十三條又ハ第二十

四條第一號乃至第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其

ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科

ス

十一 第二十七條 間接國稅犯則者處分法ハ第

二十三條、第二十四條又ハ本法ニ基キ

テ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

十二 第二十八條 石油製造者ガ本法施行ノ際現ニ所有スル石油ハ之ヲ政府ニ納付スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 石油製造者石油ノ製造ヲ廢止スルモ製造場又ハ藏置場ニ石油ノ現存スル間ハ仍本法ヲ適用ス

附 則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三十條 本法施行ノ際現ニ石油ノ製造ヲ爲ス者ハ本法施行後一月以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ届出ヅベシ

三十一條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十二條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十三條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十四條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十五條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十六條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十七條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十八條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

三十九條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

四十條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

四十一條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

四十二條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

四十三條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

四十四條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本ノ指定期ヲ受クベシ

第七條ノ規定ヘ前項ノ規定ニ依リ政府
ニ納付スル石油ニ之ヲ準用ス

第三十三條 石油製造者以外ノ者ガ本法

施行ノ際現ニ所有スル石油ニ付テハ第

十五條ノ規定ヲ適用セズ

前條第一項但書ノ場合ニ於テ所有シ、

所持シ又ハ消費スル石油ニ付亦同ジ

第三十四條 挥發油及アルコール混用法

ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ爲シタ

ル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本

法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十五條 挥發油稅法ハ之ヲ廢止ス但

シ左ニ掲タル揮發油ニ付テハ仍同法ニ
依ル

一 本法施行前ニ揮發油稅ヲ課シ又ハ

課スベカリシモノ

二 挥發油稅法第七條ノ規定ニ依リ本

法施行前ニ製造場又ハ保稅地域ヨリ

引取リタルモノ

三 本法施行前ニ外國輸出又ハ朝鮮移
出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域

ヨリ引取リタルモノ

第三十六條 石油業法中左ノ通改正ス但
シ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰
則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

「石油輸入業」ヲ「原油輸入業」ニ、「石油
輸入業者」ヲ「原油輸入業者」ニ改ム
第四條第一項中「石油ノ輸入」ヲ「原油
ノ輸入」ニ、「精製ニ必要ナル石油」ヲ
「精製ニ必要ナル原油」ニ改メ同條第二
項ヲ削ル

第五條中「石油ヲ」ヲ「原油ヲ」ニ改ム

第六條中「所有スル石油」ヲ「所有スル
原油」ニ改ム

第七條第一項中「石油ノ販賣價格」ヲ

「原油ノ販賣價格」ニ改ム

第三十七條 人造石油製造事業法中左ノ
通改正ス但シ本法施行前ニ爲シタル行
為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前
ノ規定ニ依ル

第九條 削除

第十六條第一項ヲ削ル

第十八條 削除

第二十二條 人造石油製造會社第十六

條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ
違反シタルトキハ其ノ取締役又ハ其
ノ職務ヲ行フ監査役ヲ三千圓以下ノ
罰金ニ處ス

燃料局特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月九日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長 伯爵松平 賴壽殿

燃料局特別會計法案

燃料局特別會計法

第一條 燃料局ニ於テアルコール及石油

ノ專賣事業ヲ經營スル爲固定資本及据

置運轉資本ヲ置キ事業上ノ收入及附屬

雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ事業上ノ諸

費用ヲ以テ其ノ歲出トシ特別會計ヲ設

置ス

第二條 燃料局固定資本ハ從來燃料局酒

精部ニ於テ使用シ茲ニ將來アルコール

及石油ノ專賣事業ヲ經營スル爲增加ス

ル所ノ土地、建物、工作物、船舶、機

械、重要ナル器具及永遠保存品ヲ以テ

爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前
ノ規定ニ依ル

第九條 本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施

行ス但シ燃料局酒精部特別會計ニ關シ

テハ昭和十七年度分ニ限り第十三條及

第十四條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ
依ル

第十條 燃料局ニ於テ爲スブタノール及

アセトンノ製造ニ關スル事業ハ本法ノ

適用ニ關シテハ之ヲアルコール及石油

ノ專賣事業ト看做ス

第十一條 昭和十七年度ニ於テ燃料局酒

精部特別會計ニ於テ賣拂ヒタルアルコー

ルノ代價ノ内翌年度納付ノ許可アリタ

ルモノハ之ヲ本會計ニ於テ其ノ歲入ニ
受入ルベシ

第十二條 燃料局酒精部特別會計ニ屬ス

ル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ノ

收入及支出ノ未濟額トス

昭和十七年度燃料局酒精部特別會計ノ

歲出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノ

ハ之ヲ本會計ニ繰越シ使用スルコトヲ
得

第十三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

第二條第六項ヲ削ル

第十四條 昭和十七年法律第二十號附則

第四項乃至第七項ヲ削ル

校ハ之ヲ直轄學校ト致シマス爲、同法中、
師範學校ニ關スル部分ヲ削除スルノ必要ヲ
令及ビ實業學校令ヲ廢止致シマシテ、中等
學校令ヲ制定スルコトニ致シマシタ爲、同
法中、學校ノ名稱ヲ變更スルノ必要ヲ生ジ
マシタノデ、是等關係條項ヲ整理セムトス
ルモノデアリマス、次ニ義務教育費國庫負
擔法中改正法律案ノ內容ハ、國民學校職員
ニ對スル諸給與ノ中、俸給費ニ付、國庫ガ
其ノ半額ヲ負擔スルコトニナシテ居リマス
現行制度ヲ擴充致シマシテ、年功加俸、特
別加俸、賞與、死亡賜金及赴任旅費ニ付キ
マシテモ、國庫ガ其ノ半額ヲ負擔セムトス
ルモノデアリマス、此ノ中、年功加俸及特
別加俸ニ付キマシテハ、從來國民學校教育
費國庫補助法ニ依リマシテ、毎年豫算ニ定ム
ル額ヲ補助シテ來タモノデアリマス、又賞
與、死亡賜金及赴任旅費ハ、全額地方費ノ
負擔ニ屬シマシテ、國庫ハ別ニ直接財政上
ノ援助ヲ爲サナカッタモノデアリマス、今
回是等經費ニ付キマシテモ、俸給費ト同様
ニ、國庫ニ於テ其ノ半額ヲ負擔スルコトト
致シマシテ、國民學校職員ノ待遇ニ關スル
地方財源ヲ確實ニ致シマスコトハ、國民
教育刷新振興上誠ニ喫緊ノ要務デアルト存
ジマシテ、此ノ改正法律案ヲ提出スルニ至
リマシタ次第デゴザイマス、尙先ニ申述ベ
マシタ理由ニ依リマシテ、國民學校教育費
國庫補助法ハ不要トナリマスノデ、之ヲ廢
止セムトスルモノデアリマス、以上二件ノ

法律案ニ付キマシテ、何卒御審議ノ上速力
ニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス
○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ
公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法
律案外一件ノ特別委員ノ數ヲ十二名トシ、
其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ
提出致シマス
○子爵秋田重季君 賛成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔小野寺書記官朗讀〕
公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正
法律案外一件特別委員
侯爵淺野 長武君 伯爵山本 清君
子爵清岡 長言君 子爵錦小路頼孝君
平塚 廣義君 下條 康麿君
鈴木 幸作君 田中 穂積君
○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第七、農業
保險法中改正法律案、日程第八、食糧管理
特別會計法中改正法律案、日程第九、農業
保險ノ保険料國庫負擔金等ノ交付及分擔等
ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、
第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲
スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

農業保險法中改正法律案
農業保險法中改正法律案
農業保險法中左ノ通改正ス
第一條第二項中「前項」ヲ「前三項」ニ改メ
同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ
命令ノ定ムル所ニ依リ市農會又ハ町村
農會ニ對シ共濟事業ヲ行フベキコトヲ
命令ズルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ共濟事業ヲ行フベキ
コトヲ命ゼラレタル市農會又ハ町村農
會第一項ノ認可ヲ申請セザルトキハ行
政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ共濟事
業ノ開始ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコ
トヲ得
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
食糧管理特別會計法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十八年二月九日

農業保險法中改正法律案
食糧管理特別會計法中改正法律案
食糧管理特別會計法中改正法律案
第一條中「又ハ貯藏」ヲ「貯藏又ハ検査」ニ
改ム
第三條中「外國」ノ上ニ「臺灣又ハ」ヲ加フ
第六條中「貯藏」ノ下ニ「検査」ヲ、「運搬」

校ハ之ヲ直轄學校ト致シマス爲、同法中、
師範學校ニ關スル部分ヲ削除スルノ必要ヲ
令及ビ實業學校令ヲ廢止致シマシテ、中等
學校令ヲ制定スルコトニ致シマシタ爲、同
法中、學校ノ名稱ヲ變更スルノ必要ヲ生ジ
マシタノデ、是等關係條項ヲ整理セムトス
ルモノデアリマス、次ニ義務教育費國庫負

擔法中改正法律案ノ內容ハ、國民學校職員
ニ對スル諸給與ノ中、俸給費ニ付、國庫ガ
其ノ半額ヲ負擔スルコトニナシテ居リマス
現行制度ヲ擴充致シマシテ、年功加俸、特
別加俸、賞與、死亡賜金及赴任旅費ニ付キ
マシテモ、國庫ガ其ノ半額ヲ負擔セムトス
ルモノデアリマス、此ノ中、年功加俸及特
別加俸ニ付キマシテハ、從來國民學校教育
費國庫補助法ニ依リマシテ、毎年豫算ニ定ム
ル額ヲ補助シテ來タモノデアリマス、又賞
與、死亡賜金及赴任旅費ハ、全額地方費ノ
負擔ニ屬シマシテ、國庫ハ別ニ直接財政上
ノ援助ヲ爲サナカッタモノデアリマス、今
回是等經費ニ付キマシテモ、俸給費ト同様
ニ、國庫ニ於テ其ノ半額ヲ負擔スルコトト
致シマシテ、國民學校職員ノ待遇ニ關スル
地方財源ヲ確實ニ致シマスコトハ、國民
教育刷新振興上誠ニ喫緊ノ要務デアルト存
ジマシテ、此ノ改正法律案ヲ提出スルニ至
リマシタ次第デゴザイマス、尙先ニ申述ベ
マシタ理由ニ依リマシテ、國民學校教育費
國庫補助法ハ不要トナリマスノデ、之ヲ廢
止セムトスルモノデアリマス、以上二件ノ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、井野興林大臣
○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ
公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法
律案外一件ノ特別委員ノ數ヲ十二名トシ、
其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ
提出致シマス
○子爵秋田重季君 賛成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔小野寺書記官朗讀〕
公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正
法律案外一件特別委員
侯爵淺野 長武君 伯爵山本 清君
子爵清岡 長言君 子爵錦小路頼孝君
平塚 廣義君 下條 康麿君
鈴木 幸作君 田中 穂積君
○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第七、農業
保險法中改正法律案、日程第八、食糧管理
特別會計法中改正法律案
第一條中「前條第二項」ヲ「前條第四項」ニ
改ム
第十五條、第十七條第一項、第十九條、
第二十三條第一項、第二十四條第一項、
第二十八條第二項、第三十一條乃至第三
十三條、第三十五條第一項及第五十四條
第一條中「第一條第三項」ヲ「第一條第五
項」ニ改ム
第一條中「又ハ貯藏」ヲ「貯藏又ハ検査」ニ
改ム
第三條中「外國」ノ上ニ「臺灣又ハ」ヲ加フ
第六條中「貯藏」ノ下ニ「検査」ヲ、「運搬」

日本蠶絲統制株式會社ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ桑葉ノ保險ニ付農業保險組合
ノ組合員ノ支拂フベキ保險料ノ一部ヲ
負擔スル爲國庫ニ納付金ヲ爲スベシ
前項ノ規定ニ依リ納付シタル金額ハ法
人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル
益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上
之ヲ損金ニ算入ス

日本蠶絲統制株式會社ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ桑葉ノ保險ニ付農業保險組合
ノ組合員ノ支拂フベキ保險料ノ一部ヲ
負擔スル爲國庫ニ納付金ヲ爲スベシ
前項ノ規定ニ依リ納付シタル金額ハ法
人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル
益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上
之ヲ損金ニ算入ス

ニ關スル諸費、」ノ下ニ「一般會計及農業再保險特別會計ヘノ繰入金、」ヲ加フ

附 則

本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス

農業再保險特別會計法第二條中「一般會計」ノ下ニ「及食糧管理特別會計」ヲ加ヘ「及附屬雜收入」ヲ「並」ニ附屬雜收入」ニ改ム

農業保險ノ保險料國庫負擔金等ノ交付及分擔等ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月九日

衆議院議長　岡田　忠彦

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

農業保險ノ保險料國庫負擔金等ノ交付及分擔等ニ關スル法律案

第一條 農業保險法第五十六條第一項ノ規定ニ依ル農業保險ノ保險料國庫負擔金ハ之ヲ一般會計ノ歲入ニ受入レ同

農業保險ノ保險料國庫負擔金等ノ交付及分擔等ニ關スル法律案

第一條 農業保險法第五十六條第一項ノ規定ニ依ル農業保險ノ保險料國庫負擔金ハ農業保險組合ノ組合員ノ爲ニ組合ニ之ヲ交付シ又ハ繰入ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合ニ交付スペキ國庫負擔金ノ一部ハ組合ニ對シ之ヲ交付

スルニ代へ夫々農業保險組合聯合會又ハ政府ノ受クベキ再保險料ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合聯合會又ハ農業再保險特別會計ニ之ヲ交付シ又ハ繰入ルコトヲ得

附 則

本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣井野碩哉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(井野碩哉君)　只今議題トナリ

マシタ農業保險法中改正法律案外二件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、先づ農業保險法中改正法律案ニ付キマシテ

キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、大東亞戰爭ノ進展ニ

依ル水稻ノ冷害共濟事業ノ共濟掛金國

庫負擔金ハ當該事業ヲ行フ農業保險組合ノ組合員ノ爲ニ組合ニ之ヲ交付ス

農業再保險特別會計法第二條中「一般會計」ノ下ニ「及食糧管理特別會計」ヲ加ヘ「並」ニ附屬雜收入」ヲ「並」ニ附屬雜收入」ニ改ム

第二條 前條ノ國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一般會計及食糧管理特別會計ニ於テ之ヲ分擔ス

前項ノ規定ニ依リ食糧管理特別會計ニ依リ農業保險組合又ハ農業保險組合ノ歲入ニ付ス

聯合會ニ交付スルモノハ之ヲ一般會計ノ歲入ニ繰入レ同會計ノ歲出トシテ拂出スベシ

第三條 農業保險法第五十六條第二項ノ規定ニ依ル日本蠶絲綿制株式會社ノ負擔金ハ之ヲ一般會計ノ歲入ニ受入レ同

會計ノ歲出トシテ拂出スベシ

前項ノ規定ニ依リ拂出スモノハ農業保險組合ノ組合員ノ爲ニ組合ニ交付スル

ニ代へ夫々農業保險組合聯合會又ハ政

府ノ受クベキ再保險料ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ農業保險組合聯合會又ハ農業再保險特別會計ニ之ヲ交付シ又ハ繰入ルコトヲ得

作ヒマシテ、日本民族ノ源泉タル農村ノ維持育成、及ビ日滿ヲ通ズル食糧自給力強化ノ根本國策ヲ實現致シマスル爲ニ、農業經營ノ安定ヲ圖リ、農家經濟ノ確立ヲ期スルノ必要ハ、益緊切ナルモノガアルノデアリマスルガ、就中、農業上ノ災害ニ對スル共濟保險施設ノ整備ハ、農業經營ノ安定上今日必須ノ要務ト存ズルノデアリマス、然ルニ現行ノ農業保險制度ニ依ル損害ノ補填ハ、保險金額少額ナルノミナラズ、保險料負擔ノ關係上、五割程度ノ減收トナリマシタ場合ニモ、支拂保險金ハ反當リニ超エザル状態デアリマシテ、再生産ノ確保及び農業經營ノ安定ヲ期シマスルニハ不十分ト認メラル、ノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ、時局ノ要請ニ應ジ、基本國策ノ完遂ニ資シマスル爲、今回保險制度ノ改正ヲ實行セムトルノデアリマシテ、其ノ要點ハ、第一ニハ、反當リ保險金額ヲ引上げ、被害程度別支拂割合ヲ改訂シ、第二ニハ、之ニ伴ヒ増加スル純保險料ノ一部ヲ、一般會計、食糧管理特別會計及ビ日本蠶絲綿制株式會社ニ於テ分擔スルコトシ、第三ニハ、以上ノ施設ト對應シ、危險ノ分散調節ヲ良好ナラシムルト共ニ、全國的共濟ノ實ヲ擧げマス爲ニ、總テノ市農會又ハ町村農會ニ對シ、共濟事業ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノトセムトルモノデアリマス、尙水稻ノ冷害ニ付キマシテモ、右ノ如キ保險ノ施設ニ付セムトルモノデアリマス、尙水稻ノ冷害ニ付キマシテ、反當リ共濟金ヲ引上げ、支拂

本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣井野碩哉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(井野碩哉君)　只今議題トナリ

マシタ農業保險法中改正法律案外二件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、先づ農業保險法中改正法律案ニ付キマシテ

セシムルコト致シテ居ルノデアリマス、セシムルコト致シテ居ルノデアリマス、

右ノ場合ニ於キマシテ、先づ保險料國庫

負擔金及共濟掛金庫負擔金ノ交付ニ付キ
マシテハ、民間ニ於ケル農業保險事務處理
上ノ便宜ヲ考慮シ、其ノ一部ハ組合員ノ爲
ニ組合ニ之ヲ交付スルコト致シマスト共ニ、
其ノ一部ハ組合ニ交付スルニ代ヘテ農業
保險組合聯合會又ヘ政府ノ受クベキ再保險
料ニ充ツル爲ニ農業保險聯合會ニ交付
シ、又ハ農業再保險特別會計ニ繰入レル
コト致スノ必要ガアルノデアリマス、
次ニ農業保險ノ純保險料ノ國庫負擔金ニシ
テ、米麥ニ關スルモノ及水稻ノ冷害共濟掛
金ノ國庫負擔金ハ、之ヲ食糧管理特別會
計ニ於テモ分擔スルコト致シマシテ、
マシテハ、事務簡捷ノ趣旨ニ依リ、之ヲ
一般會計ニ繰入レ、一般會計ノ分擔額ト
併セ一括シテ交付スルノヲ適當ト認メタノデア
リマス、又農業保險料ノ純保險料ニ關スル日
本蠶絲統制株式會社ノ負擔金ニ付キマシテモ、
事務簡捷ノ趣旨ニ依リ、之ヲ一旦一般特別會
計ニ納付セシメマシタル上、政府ノ負擔スル保
險料國庫負擔金ト併セ一括シテ農業保險組
合聯合會ニ交付シ、或ハ農業再保險特別會
計ニ繰入レルコトヲ適當ト認メタノ
デアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ本法
律案ヲ提出致シタ次第アリマス、以上三
上速カニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致
シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ

農業保險法中改正法律案外二件ノ特別委員
ノ數ヲ二十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議
長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔高山雪記官朗讀〕

農業保險法中改正法律案外二件特別委員
公爵一條 實孝君 公爵山縣 有道君
侯爵池田 宣政君 子爵岡部 長景君
子爵土岐 章君 伯爵黒木 三次君
入江 貫一君 三井清一郎君
男爵三須 精一君 男爵稻田 昌植君
男爵坊城 優賢君 男爵西 酉乙君
宮田 光雄君 赤池 濃君
松本 學君 千石興太郎君
山上 岩二君 塩田 國平君
大藪 守治君 米原 章三君
石黒 忠篤君 柴田 兵一郎君
昭和十八年二月九日

委員長 伯爵柳原 義光
貴族院議長伯爵松平頼壽殿

裁判所構成法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和十八年二月九日

陪審法ノ停止ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

陪審法ノ停止ニ關スル法律案
ニ付キマシテ、滿洲國ノ法院ガ、日本人ニ
シタイト存ジマス、先づ在滿日本人ノ身分
ヨリハ懇切丁寧ナル應答ガアッタノデアリ
マス、今質問ノ主ナルモノ一二三ヲ御紹介致
シタノ時存ジマス、先づ在滿日本人ノ身分
ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案
ニ付キマシテ、滿洲國ノ法院ガ、日本人ニ
對シ日本ノ法律ヲ適用シテ裁判シ得ルノハ
ドウ云フ根據ニ因ルノカ、ト云フ問ニ對シ、
昭和十二年ノ滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢
臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ同條約附屬協
定ノ定ムル所ニ依リ同國ノ法令ニ服スベ
シトアリ、同條約附屬協定第一條ニハ、
ニ關スル法律案外二件ノ特別委員會ノ經
過ノ大要並ニ其ノ結果ヲ御報告申上ゲマ
ス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十、在滿
日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ
關スル法律案、日程第十一、裁判所構成法
中改正法律案、日程第十二、陪審法ノ停止
ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、
委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト

ス、議題トナリマシタ三法案ノ趣旨並ニ提
案ノ理由ニ付キマシテハ、先般本議場ニ於
キマシテ司法大臣ヨリ詳細ニ御説明ガアリ
マシタカラ、私ハ之ヲ省略致シマス、委員
會ハ、去ル一月三十日正副委員長ノ互選ヲ
行ヒ、引續キ同日ヨリ二月九日迄、七回ニ
互ツテ會議ヲ開キマシタ、本委員會ニハ、曩
ノ本會議ニ於キマシテ此ノ三法案ノ外戰時
刑事特別法中改正法律案モ併託セラレタノ
デアリマスガ、同法案ハ審議ノ都合上分離
致シマシテ討議スルコトト相成リマシタ、
カルガ故ニ戰時刑事特別法案ヲ除ク三案
ハ、之ヲ一括致シマシテ議題トシ、政府當
局ヨリ法案ノ内容ニ付キマシテ詳細ナル說
明ヲ聽取致シ、續イテ質疑ニ入りマシタ、
委員諸君ハ、種々ノ方面ヨリ慎重ニ且熱心
ニ檢討ヲ行ハレ、之ニ對シテ政府委員諸君
ヨリハ懇切丁寧ナル應答ガアッタノデアリ
マス、今質問ノ主ナルモノ一二三ヲ御紹介致
シタノ時存ジマス、先づ在滿日本人ノ身分
ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案
ニ付キマシテ、滿洲國ノ法院ガ、日本人ニ
對シ日本ノ法律ヲ適用シテ裁判シ得ルノハ
ドウ云フ根據ニ因ルノカ、ト云フ問ニ對シ、
昭和十二年ノ滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢
臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ同條約附屬協
定ノ定ムル所ニ依リ同國ノ法令ニ服スベ
シトアリ、同條約附屬協定第一條ニハ、
ニ關スル法律案外二件ノ特別委員會ノ經
過ノ大要並ニ其ノ結果ヲ御報告申上ゲマ
ス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十、在滿
日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ
關スル法律案、日程第十一、裁判所構成法
中改正法律案、日程第十二、陪審法ノ停止
ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、
委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト

ス、議題トナリマシタ三法案ノ趣旨並ニ提
案ノ理由ニ付キマシテハ、先般本議場ニ於
キマシテ司法大臣ヨリ詳細ニ御説明ガアリ
マシタカラ、私ハ之ヲ省略致シマス、委員
會ハ、去ル一月三十日正副委員長ノ互選ヲ
行ヒ、引續キ同日ヨリ二月九日迄、七回ニ
互ツテ會議ヲ開キマシタ、本委員會ニハ、曩
ノ本會議ニ於キマシテ此ノ三法案ノ外戰時
刑事特別法中改正法律案モ併託セラレタノ
デアリマスガ、同法案ハ審議ノ都合上分離
致シマシテ討議スルコトト相成リマシタ、
カルガ故ニ戰時刑事特別法案ヲ除ク三案
ハ、之ヲ一括致シマシテ議題トシ、政府當
局ヨリ法案ノ内容ニ付キマシテ詳細ナル說
明ヲ聽取致シ、續イテ質疑ニ入りマシタ、
委員諸君ハ、種々ノ方面ヨリ慎重ニ且熱心
ニ檢討ヲ行ハレ、之ニ對シテ政府委員諸君
ヨリハ懇切丁寧ナル應答ガアッタノデアリ
マス、今質問ノ主ナルモノ一二三ヲ御紹介致
シタノ時存ジマス、先づ在滿日本人ノ身分
ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案
ニ付キマシテ、滿洲國ノ法院ガ、日本人ニ
對シ日本ノ法律ヲ適用シテ裁判シ得ルノハ
ドウ云フ根據ニ因ルノカ、ト云フ問ニ對シ、
昭和十二年ノ滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢
臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ同條約附屬協
定ノ定ムル所ニ依リ同國ノ法令ニ服スベ
シトアリ、同條約附屬協定第一條ニハ、
ニ關スル法律案外二件ノ特別委員會ノ經
過ノ大要並ニ其ノ結果ヲ御報告申上ゲマ
ス

國臣民ハ滿洲國ノ裁判管轄權ニ服スベシ、トアリ、更ニ同條約及附屬協定ニ關スル日滿兩國全權委員間ノ了解事項中ニ、日本國判所ハ日本國法令ニ準據スベキモノトス、ト定メラレテアルノデアリマシテ、是等ガ其ノ根據トナルノデアルト云フ御答辯ガゴザイマシタ、次ニ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマシテハ、奏任ニナッタ書記ニハ別ノ名稱ガ附クノカ或ハ其ノ儘デアルノカ、ト云フ問ニ對シマシテ、官ハ矢張リ裁判所書記デアッテ、之ニハ變りガナイガ、何カ適當ナ名稱ヲ附ケタイト思ツテ居ルト、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、次ニ審審法ノ停止ニ關スル法律案ニ付キマシテ、一委員ヨリ、陪審法ハ、此ノ制度ガナケレバドウシリテモ國民ノ保護ガ十分デナイト云フ意氣込デ制定セラレタノデアルガ、期待ニ反シ、陪審事件ハ逐年減少シ、年ニ一、二件或ハ三、四件ト云フガ如キ状態ニナツタコトハ、此ノ法律ガ我ガ國民性ニピツタリ來テ居ナイト云フ結果ト思フ、本停止法案ヲ提出スルニ際シ、陪審制度ヲ廢止スペキヤ、又一時停止スベキヤト云フコトヲ研究サレタコトト思フガ、停止ノ結論ヲ採用セラレタ其ノ理由如何、又將來陪審法ヲ一層權威アル法律ニ改正スル爲ニ研究シ居ルコトガアルカ、トノ質問ガアリマシテ、政府委員ヨリ、陪審事件減少ノ理由ハ、想像スルニ、控訴審ガナイコトニ歸著スルト思ハレル、併シ陪審ニ控訴ヲ許スコトハ、理論上カラモ、事實上力

ラモ至難ノコトデ、控訴審ガナイコトハ制
度上已ムヲ得ナイコトデアル、陪審事件ヲ
殖ス爲ニ控訴審ヲ設ケルコトハ考ヘテ居ナ
イ、事件數ハ假ニ少クアリマセウトモ、陪
審制度ハ存置スルノガ適當デアルト思フ、
外部カラハ廢止論モ唱ヘラレタノデアルガ、
司法部トシテハ、之ヲ存置スベシト云フ意
見ヲ堅ク持ツテ居タノデアルガ、唯戰時下已
ムヲ得ナイ一時的ノ措置トシテ停止シタイ
ノデアル、陪審判決ニ控訴ヲ許スコトヘ反
對デアルガ、ソレ以外ノ改正ハ將來再ビ施
行スルニ際シ大イニ研究ノ餘地ガアリ、十
分考慮シタイガ、具體的ニハ今ノ所考ヘテ
居ナイ旨ノ御答辯ガアリマシタ、又一委員
ヨリ、陪審制度ノ爲ノ豫算關係ニ付質問ガ
アリマシテ、政府委員ヨリ、陪審法施行ノ最初
數年間ハ、陪審事件ノ爲ノ經費ト通常事件
ノ爲ニスル經費トヲ分ケテ居ツタガ、其ノ後
ハ一緒ニナツテ居リ、唯陪審員ニ對スル旅費
日當ノミガ特別ナ費用トシテ計上サレテ居
リマスルガ、是ハ大シタ額デベナイト云フ
旨ノ御答辯ガアッタノカ如何カ、ト云フ一委員ノ
質問ニ對シ、政府委員ヨリ陪審法制定ニ付畏キ邊ヨ
リ御優説ヲ拜シタヤウニナツテ居ルガ、左様
ナコトガアッタノカ如何カ、ト云フ一委員ノ
質問ニ依ルト、陪審法制定ニ付畏キ邊ヨ
リ、畏クモ車駕東京ノ法衙ニ御親臨相成
リ、優渥ナル御沙汰ヲ拜シタコトハアリマス
トハ承知シテ居ナイ旨ノ御答辯ガアッタノデ
アリマス、斯クテ質疑ヲ終了致シ、討論ニ

○議長（伯爵松平頼壽君）別ニ御發言モナ
ケレバ、三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第
二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
ヲ以テ此ノ三案共原案通り可決致シマシタ、
以上簡單デゴザイマスガ、御報告申上グル
次第ニアリマス

○議長（伯爵松平頼壽君）別ニ御發言モナ
ケレバ、三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第
二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長（伯爵松平頼壽君）御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長（伯爵松平頼壽君）西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長（伯爵松平頼壽君）御異議ナイト認
メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）三案ノ第二讀會
ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題
ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通り
デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長（伯爵松平頼壽君）御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長（伯爵松平頼壽君）西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ござイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、是ニテ本日ノ日程全部ヲ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第臺報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後二時三十五分散會

